



特集 2

武蔵境駅では現在、JR中央線などの高架化に伴う新駅舎工事が進められていますが、駅周辺の施設や道路も南北一体化に向けて整備が進められています。本特集では、まちづくりの計画と現在の進捗状況についてレポートしていきます。

生まれ変わる武蔵境駅とその周辺開発の「今」をレポートします

武蔵境駅周辺は長年、鉄道踏切によって南北の通行がスムーズではなく、交通渋滞や踏切事故などが問題となってきました。東京都では、沿線市・JR・西武鉄道の協力のもと、都市計画事業としてJR中央線の三鷹駅から立川駅間と西武多摩川線の高架化を進めてきました。平成18年12月に西武線、平成21年12月にはJR中央線（三鷹駅・国分寺駅間）の高架化が完成し、武蔵境駅では南北一体となったまちづくりが推進されています。コンセプトは武蔵境らしさを生かした「うるおい」「ふれあい」「にぎわい」のまちづくりです。平成23年7月には駅南口に新たな文化拠点「武蔵野プレイス」がオープンするとともに、隣接して境南ふれあい広場公園も整備されました。

理想のまちづくりを実現するために現在市および関係機関では駅とその周辺においてさまざまな工事を実施しています。武蔵境らしい駅舎づくり、駅の周囲を雨に濡れずに回遊できる回廊の設置、地域全体が活性化するように高架下の利用、そして交通が循環し人々にぎわう北口駅前広場の整備などです。

南北の一体化と駅周辺のスムーズな交通処理を目的とした道路の整備も進められています。鉄道脇の側道や南北・東西の道路計画によって、市民生活の利便性向上を図っていきます。

武蔵境開発状況マップ

- 武蔵境駅舎の整備
- 市道第291号線
- 北口駅前広場の整備
- 市道第292号線 (工事完了)
- 武3・3・23 (完了) (本町通り)
- 市道第310号線／第311号線／第312号線
- 都道123号線 (天文台通り)
- 市道第261号線 (グリーンモール)



今後のスケジュール

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
武蔵境駅舎の整備					
北口駅前広場の整備					
都道123号線 (天文台通り)					
市道第291号線					
市道第310／第311／第312号線 (鉄道北側側道)					
市道第261号線 (グリーンモール)					

武蔵境
「まちづくり」の
コンセプト

- うるおい** 農地や屋敷林に恵まれた緑豊かな街なみ
玉川上水や仙川などの水辺空間を活かした街なみ
- ふれあい** 駅圏には多くの大学が立地、若者・学生の街
国際交流・地域間交流が活発な街
- にぎわい** 交通結節点の機能を活用したにぎわいの創出
鉄道高架下の有効活用と街の活性化

駅が変わる 利用者に優しい利便性の高い駅舎が誕生

高架化に伴って、駅舎も一新されます。地元住民と商店主から「武蔵境らしい」駅舎のデザインが提案され、屋根のラインがカーブするデザインに反映されました。このほか、緑豊かな武蔵境を表現するためにエントランスゲートには植栽が施されるとともに、

そのひさしのデザインはケヤキをイメージしたものとなります。これも地元の方々からの提案です。また、駅舎をぐるりと囲む歩道には、駅舎の壁面に接する回廊を設置して、歩行者が雨に濡れずに回遊できるように配慮しています。



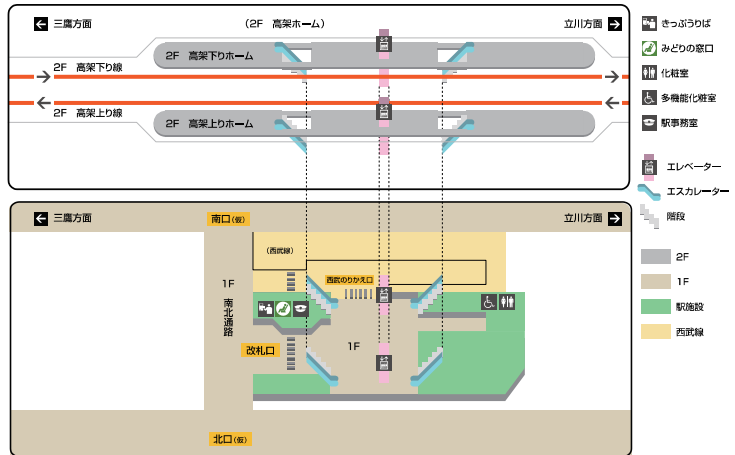
武蔵境駅北口の現在の様子



駅舎完成イメージ

にぎわいを創出する 高架下利用

鉄道の高架下には新たに空間が生まれます。市では、市民アンケート結果などをもとに平成20年に作成した高架下利用の市案に基づき、優先度の高い施設として自転車駐車場や市政センターなどを位置づけています。現在、鉄道事業者とは、駅周辺のにぎわい空間創出や、利便性、回遊性などに配慮した空間となるよう隣接する市有地の一体的な利活用を含め、高架下利用について協議・調整を行っています。



駅構内の完成イメージ（JR 提供。決まったものではありません）

円滑な交通処理を実現する 北口駅前広場

武蔵駅北口駅前広場の特徴は、駅の東西に南北道路を配置することで、通過する交通の影響を受けにくいことです。バスは原則的に広場内に集約されるとともに、タクシーも駅前に乗り場を設置できるよう事業者との調整を図っています。現在、駅舎の工事のため仮囲いが設置されていますが、すべて撤去されると駅前には現在よりも広い歩道が現れます。人々が待ち合わせなどに利用できる小広場も整備される予定です。



現在の北口駅前（スイング東側）

スムーズな交通処理を行うため、市道を整備

市道第291号線 / 第292号線



アジア大学通りから眺む市道第291号線

JR中央線などの高架化に伴い、駅北西部の交通処理、防災性の向上および適切な土地利用を誘導するために計画（整備）されたのが、市道第291号線と第292号線です。

291号線は中央線の北側を東西に通るアジア大学通り（武3・47）から旧天文台踏切の都道123号線（天文台通り）に接続する南北道路として、幅員12メートルで整備されました。武蔵境を南北



整備された市道第292号線



平成14年頃の市道第292号線

に抜ける補助的な幹線道路となります。

291号線から西側へと抜ける主要な生活道路となる292号線も整備されました。幅員は8メートルで長さ310メートルです。

武蔵境駅西側の南北交通と歩行空間の確保

都道123号線（天文台通り）



南北をつなぐ都道123号線



武蔵境駅北口から武蔵野プレス南側の境南通り（武3・42号線）を結ぶ道路として整備されているのが都道123号線（天文台通り）です。西武線・JR中央線の高架下を通り、北口駅前へと回り込んでいく（車両は進入禁止）線形となっており、高架下利用の利便性を図りながら、両側に歩道の整備を進めていきます。この道路と市道第291号線がつながり、南北をつなぐルートが整備されます。

武蔵境北側を東西に結ぶ生活道路を整備

市道第310号線 / 第311号線 / 第312号線（鉄道北側側道）

JR中央線の高架の北側には側道となる市道第310号線、第311号線、第312号線が整備され、武蔵境を東西に抜ける生活道路となります。これは、鉄道の高架化に伴う北側の日影への配慮から、一定の空間を確保し整備するものです。

電線類地中化による景観への配慮、透水性の舗装材の採用による環境への配慮、歩道のバリアフリー化、街路樹などによる緑化、そして車道の自転車走行空間の確保などを行います。



工事が進む現在の側道